

二神会総会・13年目の今年は組織整備に集中

創立から13年目に入った二神系譜研究会の定例総会が4月15日(日)11時から松山市北条ふるさと館で開催されました。この日、三年ぶりに会場に選ばれた北条ふるさと館から見える高縄山系は春の青空が広がる上天気となり、以前二神山と呼ばれていた八竹山や、天正13年秋、小早川軍と奮戦した二神通範が拠った高穴城跡が見渡せました。



【高縄山系を背景に・・・】

常民研萬井特別研究員が来賓挨拶

はじめに昨年の総会で会長に選出された二神俊一会長が挨拶に立ち「昨年の東日本大震災で人と人の絆がどれほど大切であるのかについて日本人の誰もが知らされました。私たちの系譜研究と云う活動はその絆の最も根幹に関わるものであると云えます。様々な障壁を乗り越えて前進して参りましょう」と述べました。

この後、来賓として神奈川大学日本常民研から萬井特別研究員が挨拶に立ち「三年前から取り組まれてきた瀬戸内海の歴史民俗の共同研究が今春終わり今年はいこれらの報告書をまとめる年になります。中世文書を含む二神家文書の目録・史料集の作成、全体的な調査のまとめや研究成果などを挙げることを目指して取り組んでいます」と挨拶されました。続いて豊田渉常任理事より昨年度取り組まれた諸事業と会計報告がなされこれらを承認しました。

次回「豊田氏慰霊五年祭」は2015年春開催

続いて二神英臣事務局長から2012年度の事業計画と予算案が提案されました。今年度は会が創立され13年目となりますが特に取り組まれるイベントなども予定されていません。一昨年開催された「豊田氏慰霊五年祭」は次回が2015年春に開催予定となっていて、いわば今年は中間年に当たります。このため今年を組織の整備を計るための一年間にして行くことが提案されました。特に近年逝去される会員が多くなり、会員の減少が指摘されています。相続された御子孫の方への「会員継承」のお願いをするとともに「二神系譜研究会」へ入会案内書やリニューアルをしている「二神系譜研究会HP」の充実をはかることが具体的に提案され承認されました。

今年はい役員改選が無く、常任理事への補充として二神友和氏(小川二神氏)が会長委嘱の形で承認されました。